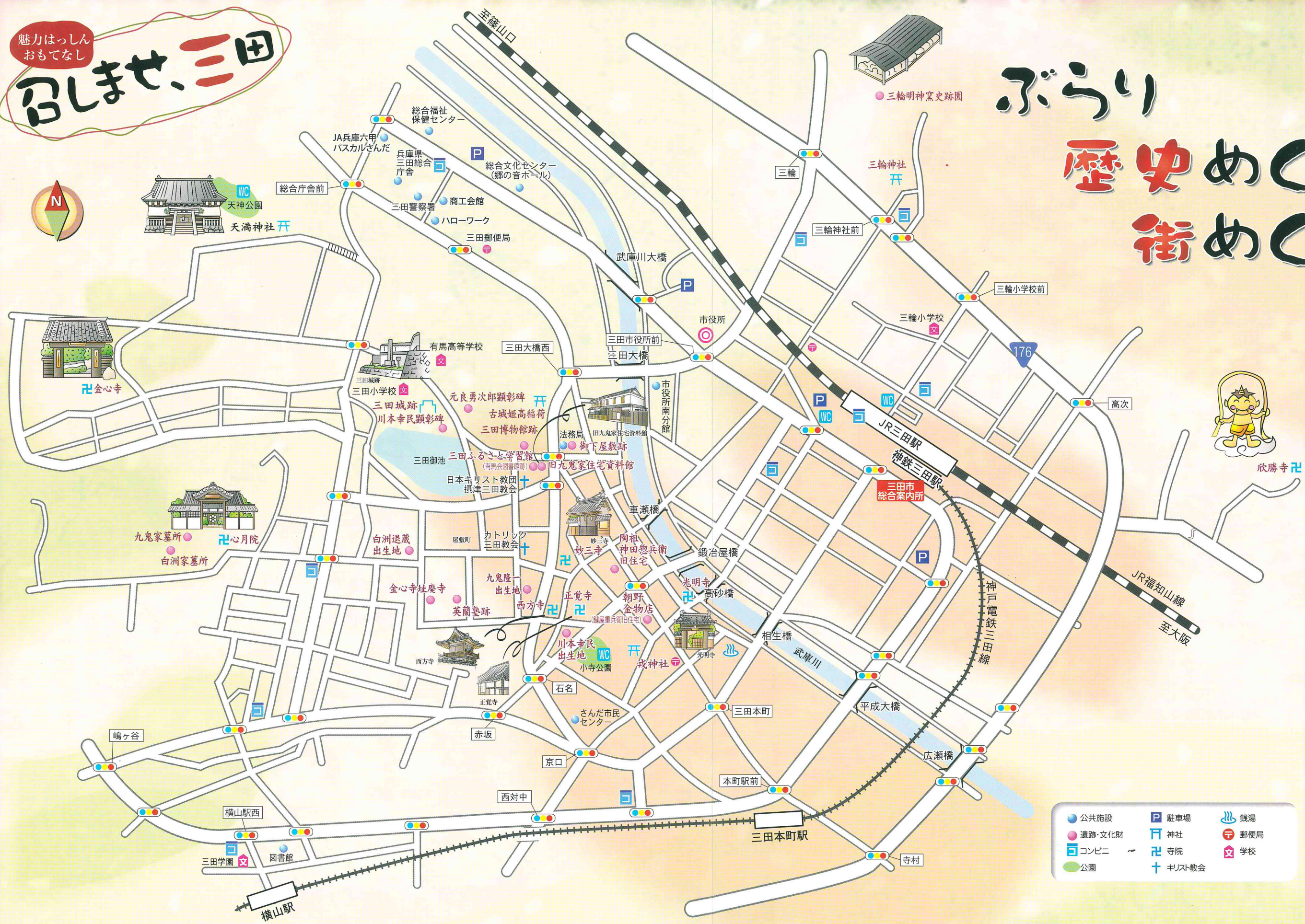


魅力はっしん
おもてなし

召ませ、三田



ぶらり 歴史めぐり 街めぐり



- | | | |
|----------|----------|-------|
| ● 公共施設 | P 駐車場 | ♨ 銭湯 |
| ● 遺跡・文化財 | ⌂ 神社 | 〒 郵便局 |
| 🏪 コンビニ | ⌛ 寺院 | 🎓 学校 |
| 🌳 公園 | ✝ キリスト教会 | |

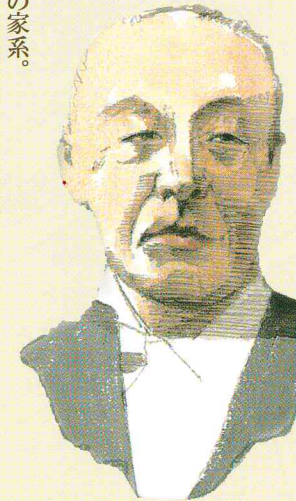
明治・大正・昭和の 激動の時代を 駆け抜けた 白洲家三代

豪放 白洲文平
1869～1935



現在の三田市屋敷町で生まれた。一致英和学校(現・明治学院大学)卒業後、米国のハーバード大学とドイツのボン大学に留学。帰国後、銀行や紡績会社に入ったが、人に使われるのを嫌い、綿貿易の会社「白洲商店」を興して、巨万の富を築いた。芦屋や伊丹に敷地約4万坪、美術館である邸宅を建て、趣味の建築などに散財。昭和の恐慌で破綻した。

英知 白洲退蔵
1829～1891



家は三田藩に代々仕えてきた儒学者の家系。藩主九鬼隆義の抜擢にこたえ、藩財政を立て直し、明治維新の際に藩をリードして難局を乗り切った。三田県大参事として太政官札の流通に努力した。隆義と共に神戸に出て志摩三商会の運営に参加し、終始九鬼家のために尽くした。のち、横浜正金銀行頭取や岐阜県大書記官などを歴任した。

直傳 白洲次郎
1902～1985



英国のケンブリッジ大学に留学。吉田茂首相の側近として、日本の復興に尽力した。日本国憲法誕生の現場に立ち会った。紳士としての「理念」と「規範」を貫き通した、昭和の侍だった。

二十世紀という激動の時代を生き延びた白洲次郎。そのルーツは兵庫県三田市にあった。

白洲次郎の生涯

白洲次郎は、父文平と母芳子の次男として、明治35年2月17日、芦屋(精道村)に生まれる。

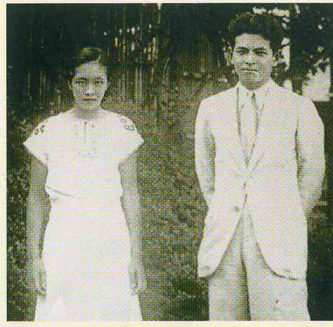


神戸一中を卒業。大正12年、英国ケンブリッジ大学クレアカレッジに留学する。

英国流の紳士道を身に付けた。



アメリカ帰りの伯爵令嬢樺山正子とめぐり合い、昭和4年に結婚する。次郎27歳、正子19歳。互いにひと目惚れであった。



占領を背負った男

終戦の年昭和20年、吉田茂外相に重用され、終戦連絡中央事務局参与となった。連合国軍総司令部(GHQ)と英国留学時代に身につけた英語をもって、対等に渡り合い、「従順ならざる唯一の日本人」と言われ、恐れられた。



(右端は吉田茂)



原理原則に忠実に生きた

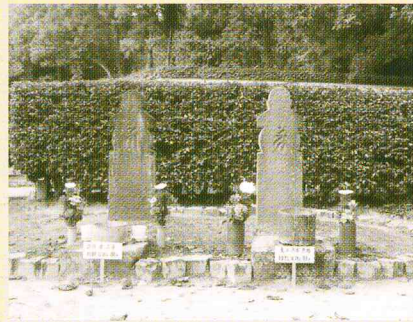
昭和21年日本国憲法制定作業の現場に立ち会ったのはじめ、初代貿易庁長官に就任した。いち早く貿易立国を標榜し、通商政策と産業政策を一体化させる通商産業省を誕生させる一役を担った。東北電力会長としても戦後の日本の復興に先鞭をつけた。昭和26年のサンフランシスコ講和会議に全権顧問として出席、そして終始毅然とした態度を貫き通した。

夫婦円満を貫いて

能や骨董に造詣の深い正子と次郎夫婦は、茅葺の自邸「武相荘」(現・東京都町田市)に住み、お互いに波乱に富んだ人生を駆け抜けた。



写真提供:コロナブックス(平凡社)



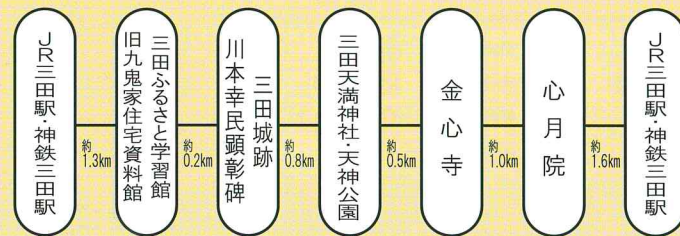
深閑とした心月院の白洲家墓地には、次郎と正子の五輪塔の板碑が寄り添って建っている。次郎の遺言通り戒名はなく、向かって右側の次郎の碑には「不動明王」、左側の正子の碑には「十一面観音」の梵字が刻まれている。



次郎と正子が眠るかくれ里。次郎は、昭和60年11月28日にこの世を去った。「葬式無用、戒名不用」と世俗の欲とは無縁に、紳士の美学を生涯貫いた男にふさわしく、僅か二行の簡素な遺言を残した。

はるかなる歴史に思いを馳せる散歩道

●所要時間約1時間30分(見学時間を除く)●距離約5.4km



観光の
お問い合わせ

三田市総合案内所(キッピーナビ)
TEL 079-563-0039
<https://sanda-kankou.jp>



三田ふるさと学習館
兵庫県下初の図書館であった有馬会図書館跡にある。三田の歴史と文化をテーマに常設展示し、気軽に三田の歴史にふれることができる。
●屋敷町7-33



妙三寺
慶長7年(1602)妙法の道場として開山。慶長17年(1612)日珍大徳和尚を迎え開基した。三好達治は、少年時代の一時期、祖母の住むこの寺で過ごした。
●三田町34-5



正覚寺
天正11年(1583)、時の領主山崎堅家は小野村にあった正覚山正福寺をここへ移し、菩提寺とした。寺内墓地に九鬼藩祖久隆の母御前の墓碑といわれるものがある。
●三田町27-35



西方寺
永禄2年(1559)に釈つ善が宅原村に道場を開いたのが始まり。天正年間(1573～1592)に荒木村重の武将荒木平太夫は宅原の居城を三田へ移した際に、この地へ移転した。 ●三田町26-8



旧九鬼家住宅資料館
三田藩家老職を代々勤めた九鬼家の住宅で、明治9年頃に建てられた全国でも数少ない擬洋風建築の建物である。
●屋敷町7-35
土・日・祝開館、季節開館有



心月院
寛永10年(1633)鳥羽より移封された藩主九鬼氏は、以前ここにあった梅林寺を増改築。鳥羽の菩提寺常安寺の寛雄是和尚を請じて開基した。九鬼家代々の宗廟とした。
●西山2-4-31



金心寺
8世紀創建という金心寺は、屋敷町付近一帯に大伽藍があった。ご本尊の胎内に「金心寺三福田により三田と改める」と記されていたとされ、三田の地名の起りといわれている。
●天神3-28-45



三田天満神社
「摂津名所図会」には、三田城下のうぶすなの神として紹介している。九鬼藩主が鳥羽より三田へ来てから、代々の祈禱所となる。現社殿は7代藩主九鬼隆由の寄進である。
●天神3-34-5